

## 令和4年度第3回大分市上下水道事業経営評価委員会議事録（要旨）

● 日 時 : 令和4年10月3日（月） 午前9時33分～午前11時5分

● 場 所 : 上下水道局5階 大会議室

● 出席者 :

【 委 員 】 林勇貴委員長、荒金一義副委員長、秦野真郎委員、木内純子委員、  
岐津桂一委員、新垣幸代委員、谷川真奈美委員（計7名）

【 事務局 】 古城上下水道部長、首藤上下水道部審議監、衛藤上下水道部次長  
阿部総務課長、安東経営企画課長、笠置営業課長  
奥家水道維持管理課長、木元水道整備課長、足立浄水課長  
泥谷下水道整備課長、三重野下水道施設管理課長  
（経営企画課）狩生主査、松本、岡本、井ノ口、  
佐藤参事補、長田、横江、上野  
（営業課）柴田（計20名）

● 次 第 : (1) 開会

(2) 議事

① 水道料金体系の見直しについて

② 水道事業・公共下水道事業経営診断書（案）について

(3) 閉会

## ●議事に係る質疑応答、意見

### ① 水道料金体系の見直しについて

#### <質疑・応答>

#### 1 料金体系の見直しを行う理由

- 他の自治体では、経営環境が厳しくなるなかで値上げするところもあります。大分市はダムの完成などにより水道水の安定供給体制が整ったためという事情から、値下げすることとなったことを市民に説明し、今回改定に関して誤解を生じさせないようにしてもらいたい。

#### 2 見直しにあたっての考え方

- 従量料金の最高単価は今後も引き下げていくのか。料金全体としてもまだ下げられる余地があれば下げてもらいたい。

今後も概ね4年ごとに料金の見直しを行います。適正な原価計算をもとに料金水準を算定し、使いやすい水道水とすることを前提に、料金体系のありかたを併せて検討していきます。さらなる最高単価の引き下げなどについては、その都度判断することになります。

- 資産維持費については、概ね4年ごとに適正に見直すようにしてもらいたい。

今後も、概ね4年ごとに料金の見直しは行っていきます。資産維持費はその都度、適正に見積ります。

- 料金体系を逓増逓減型にしているが、水道水需要を増やすことが目的であれば、単純な逓減型とすることと比較検討してはどうか。

現行の料金体系は、これまで限りある水資源を大切にという趣旨で改定が重ねられてきた経過を基礎としており、これをもとに今回示した体系となっていることをご理解ください。

## ②水道事業・公共下水道事業経営診断書（案）について

### 1 水道事業会計決算の概要

- 水道料金収入が減少したことについて、一般の使用水量が減少したためというのは具体的にはどういうことが起きたのか。

前年度の令和2年度に新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、一般家庭での巣ごもり需要が増加したが、令和3年度には社会経済活動が少しずつ回復してその巣ごもり需要が減少するという、使用形態の反動がみられたことです。

### 2 水道事業の主要指標

- 有収率が中核市平均と比較して2%しか差がないが、この差は大きなものなのか。

大分市は市域が広く管路延長が長いため、水質維持のために捨水する量も多くなり、他都市と比べて不利な状況があります。また、漏水防止対策として取り組んでいる鉛給水管の取替計画は令和6年度に完了する予定です。

### 3 水道事業の経営戦略の取組み項目

- 民間活力の導入について、目標に「コスト縮減」とあるが、具体的な数値目標があれば表示すべきでは。

戦略には具体的数値を掲げていません。戦略見直しの参考にします。

### 4 公共下水道事業の主要指標

- 水道事業と比べると中核市平均より低いものが多く、評価が軒並み低くなっている。令和10年度までにこれらの評価がAに向かって向上していくのか。

中核市平均という相対的評価基準との比較となるため、当面、本市の下水道事業の評価が低くなるのはやむをえないといえます。ただし、着実に事業推進に取り組んでいくことで評価は向上していきます。

## 5 公共下水道事業の経営戦略の取組み項目

- 新たな整備手法の導入について、整備人口などの目標数値がないのはなぜか。

新たな整備手法を取り入れていくこと自体を目標としているためです。

- 雨水管理総合計画の策定について、目標は令和元年度策定となっている。令和元年度に策定されなかった以上、今後何をもって適切に評価していくべきか。

戦略策定直後に、全国的に大雨などによる災害が激甚化していたことを受けて基準となる降雨量の見直しが国から求められ、現在まで作業が続いています。評価方法については、今後の戦略の見直しのなかで検討します。

- 再生可能エネルギーの活用について、今後具体的な展望があるなら示してほしい。

戦略の見直しのなかで検討します。

- 企業債残高の削減の目標は、達成できなくなるという見通しなのか。目標の見直しが必要であれば、戦略の見直しのなかで検討してください。

戦略の見直しのなかで検討します。

## 6 経営戦略推進のためのその他の取組み

- デザインマンホール制作の経緯と効果は。

他都市では観光資源となっている例もあり経済的効果があるとされています。本市でも、デザインマンホールの設置やマンホールカードの配布によって来街者が増えたりする副次的な効果も期待しつつ、本来の目的である、住民の下水道に対する親しみを醸成し事業への理解を深めてもらうきっかけになることを期待しています。